KANAZAWA UNIVERSITY ACTION PLAN 2010

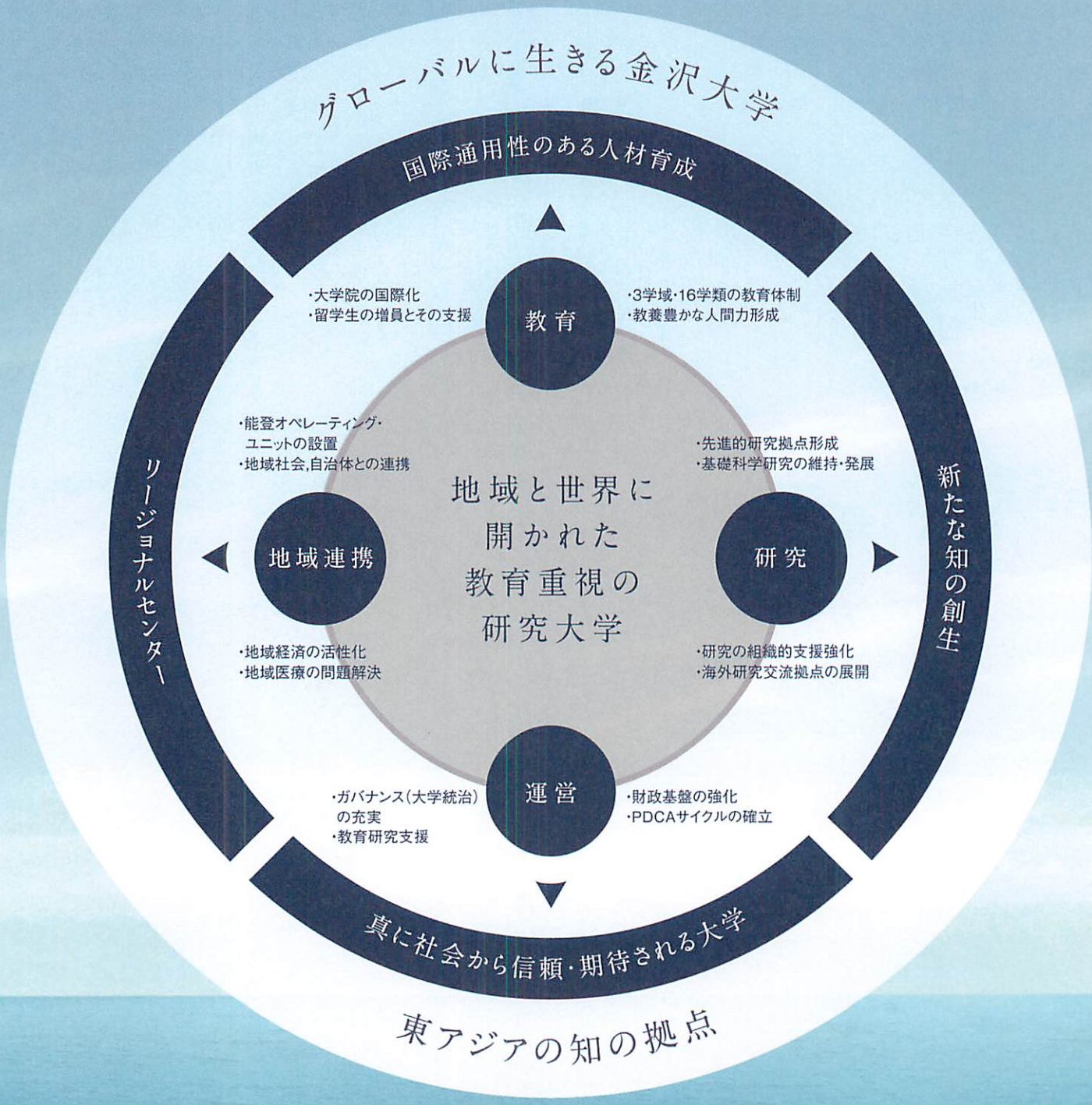
— ベスト10をめざして —

2012年 金沢大学は
創基150年。

金沢大学
創基150年

「ベスト10をめざして」

我々金沢大学に身を置くすべての構成員は，
「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を目指し，
知の創成と人材育成を大学の責務とする。
地域と世界の人々に貢献するため，個々の教員が，何ものにも束縛されることなく，
真理を追求するとともに新たな知を創造し，それに基づく教育を行うことにより
10年後に我が国ベスト10の大学となることを目指す。
ここにベスト10実現に向けての行動指針とこの間に達成しようとする基本計画を示す。



基本計画

BASIC PLANNING

Ⅰ. 教育

1. 学域・研究域とは,「学生は学域・大学院に所属し,教員は研究域に所属する」大学組織である。学域・大学院は,教育の継承性と方向性を保ちつつ,社会の変化に対応した機動性と学生のニーズに応じうる教育プログラムの多様性を軸とした教育を目指すものである。この認識に立つ教育組織を前提として,教育の諸施策を策定・実行する。また,学域における学士教育と大学院における教育は,その継続性に配慮しつつも独立した教育プログラムの下に行われるものとする。

2. 学士課程
   - ・教養豊かな人間性を具備した人間力の形成を図る。
   - ・専門的知識を修得させるとともに,各自の専門に応じて学類・学域を横断した,幅広い教育の機会を提供する。
   - ・教育資源の戦略的配置により,社会の変化に対応した学類における教育プログラムの柔軟な改善を実施し,教育効果の向上を目指す。

3. 大学院課程
   - ・大学院においては,学位の実質化を図るために,高度専門教育に即した教育プログラムを策定し実施する。
   - ・英語による教育プログラムの拡充,外国籍教員の比率拡大,国際通用性のある学位等により大学院の国際化を目指す。

4. 国際化を目指し,留学生数を飛躍的に増加させる。
   - ・留学生に関わる経済支援,就職支援,生活・宿舎支援,募集方策及びこれらを推進するための方策を立案・実行する。
   - ・留学生の受入・派遣及び外国籍教員の受入及び教員の海外派遣を推進し,海外拠点とリエゾンオフィスを展開する。これらに関する事項を統括・処理できる責任ある組織を設置する。

5. 北陸における大学間協力,教育と研究の連携推進,教育課程の共同実施等の共同事業を推進する。

Ⅱ. 研究

1. 世界に通用する高度学術研究を推進し,先進的研究拠点形成を目指す。

2. 研究拠点形成に向けて,既存の研究組織を見直すとともに,専任教員を配置した小規模研究センターを新規に設置する。
   - ・この研究センターを大学の重点支援対象として位置付け,拠点形成の中核とする。
   - ・設置後5年以内で中間評価,7年で最終評価を行い,存続または主目的の変更を含む改廃を決める。

3. 研究組織に小規模研究グループの概念を導入し,将来を見据えた世界的レベルでの研究グループ育成とその支援の単位とする。

4. 基礎科学研究を維持・発展させる。

5. 研究経費に占める外部資金の比率を飛躍的に増大する。
   - ・外部資金導入により剰余できる資源により,部局への還元策を拡充し,研究の組織的支援強化を実施する。

6. 海外に,研究交流の拠点を展開する。

基本方針

BASIC PRINCIPLE

KANAZAWA UNIVERSITY ACTION PLAN 2010

Ⅰ. 教育

1. 持続可能な社会の構築を目指し，本学は，社会の変化に耐え，自己を確立し，自らの考えと自信を持って，社会に働きかけることのできる能力を涵養する教育を行う。

2. 国立大学法人としての高等教育の責務を堅持しつつ，時代に先駆けて，将来を見据えた形で改組した3学域・16学類の教育体制を定着させ，この制度のもとに学士力ある人材の育成を目指す。

3. 大学院課程では，高度な専門的知識を修得し，独自の研究を開拓し，国際的評価に耐えうる人材を育成する。

4. 留学生共在型の教育の場を醸成し，国際的視野をもった人材を育成する。

Ⅱ. 研究

1. 強いところはさらに強化し，これにより全体のレベルアップをも図る。

2. 研究に輝く教員をもって，魅力ある大学形成を目指す。

3. 世界に優位な研究を伸ばし，研究拠点の形成を図るとともに，新しい研究領域を創生する。

4. 基礎研究分野を支援・推進する。

Ⅲ. 地域連携

1. 北陸の基幹大学として，地域における責務を果たし，リージョナルセンターとしての役割を果たす。

2. 知的資産の活用により産学官連携のもと地域経済の振興・活性化に寄与する。

3. 地域との連携を強化し，地域社会の抱える行政，教育，医療等の問題解決に寄与し，地域活性化を目指した提言と情報発信に努める。

Ⅳ. 運営

1. 広く学内外の意見を取り入れ，法令遵守に基づいた透明性の確保と説明責任を果たし，自主・自律の運営を行う。

2. 大学の基盤は教職員にあるとの認識に立ち，教職員の適材適所における活用と組織のスクラップ・アンド・ビルドにより，教育・研究・運営の質の向上を目指す。

Ⅲ. 地域連携

1. リージョナルセンターとしての役割を果たすための施策を実施する。
   ・地域社会,自治体との連携を展開する。
   ・産学官連携のもとに,大学の持つ知的資産を活用することによりイノベーションを推進し,地域経済の活性化に寄与する。
   ・北陸地域の医療活動における中心的役割を果たすとともに,地域医療の問題解決にあたる。

2. 奥能登に能登オペレーティング・ユニットを設置し,研究に資するとともに,持続的発展や低炭素社会構築の検証場所とする。また,ここを基点として地域社会の振興に寄与する。
   ・能登半島を,国内最高水準の総合的地域研究の拠点とする。

Ⅳ. 運営

1. 真に社会・地域から信頼され期待される大学を目指す。
   ・社会・地域から信頼され期待される大学であり続けるためのガバナンス(大学統治)の充実に努める。
   ・教育・研究の効率化を図りながら,適法性・透明性を保ち,学生,教職員,地域社会をはじめとしたすべてのステイクホルダーへの社会的責任を果たしていける,より実効性のあるガバナンス体制の実現を目指す。
   ・学生,教職員や社会の期待にこたえ,社会への責任を果たしていくために,コンプライアンスを最優先する組織・風土作りを進める。
   ・大学倫理綱領を定め,準拠すべき普遍的価値を明確にし,行動規範を作成し,法令を遵守し,倫理に即した活動を進める。

2. 優れた教職員の確保を目指す。
   ・教員の持つ資質の強いところを伸ばす支援策を導入する。
   ・予算及び研究面積の配分に評価の考え方を導入するなど,メリハリのある資源配分とインセンティブに配慮した配分を実施する。
   ・教職員の質の向上を図るシステムを構築する。
   ・適切な教職員の評価と評価結果を反映するシステムを構築する。

3. 大学戦略枠の教員数を拡充し,教育研究の活性化に資する。

4. 教員の教育・研究時間の確保と,機動的・効率的大学運営を目指す。
   ・教育・研究と運営を役割として適切に切り離し,管理職の管理運営上の職分と職権を明確にし,教員の教育・研究の時間を確保する。
   ・事務組織を,機動性・効率性の面から見直す。

5. 財政基盤の強化と財源の有効活用を図る。
   ・運営費交付金依存度を逓減し,これに対応した財政計画を策定し実行する。
   ・金沢大学基金の充実を図る。

6. 各種事業におけるPDCAサイクルを確立する。
   ・各種評価結果に基づく提言,事業の達成度評価及び評価に基づくインセンティブ等,PDCAサイクルに関わる権能を持つ組織を各レベルで構築する。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

編　集／金沢大学評価室・広報戦略室
所在地／〒920-1192 金沢市角間町
tel. 076-264-5024 fax. 076-234-4015
Email. now@kanazawa-u.ac.jp

www.kanazawa-u.ac.jp

Action Plan Visual Concept

ビジュアルコンセプトは「空」と「海」です。このアクションプランはわたしたち金沢大学がさらなる高みをめざすことの決意表明です。同時にあらゆるステイクホルダーを包みこむ広がりと深みをもつ壮大な計画でもあります。空のように高く。海のように広く、深い存在へ。わたしたちはこのアクションプランを指針に一丸となって、未来という大海原へ漕ぎだします。

PRINTED WITH SOY INK
R70
2010.10.3000